

いの町空家等対策計画

令和4年3月

いの町

目 次

第1章 計画の趣旨

1 計画策定の背景	1
2 計画の位置付け	1

第2章 本町の人口と空家等の状況

1 人口・世帯	2
2 住宅総数と空家数	3
3 住宅の建築時期	4

第3章 空家等対策に係る基本的な方針

1 目的	5
2 基本理念	5
3 基本的事項	6
4 計画期間	6
5 空家等の調査に関する事項	7
6 所有者等による空家等の適切な管理の促進	7
7 空家等及び除却した空家等に係る跡地の活用の促進	8
8 特定空家等に対する措置その他の特定空家等への対処に関する事項	9
9 住民等からの空家等に関する相談への対応に関する事項	12
10 空家等に関する対策の実施体制に関する事項	13
11 空家等に関する対策の実施に関し必要な事項	14

第4章 空家等対策の基本的施策

1 空家等に関する補助制度等	16
----------------------	----

資料編

1 空家等対策の推進に関する特別措置法	17
2 空家等対策の推進に関する特別措置法施行規則	22

第1章 計画の趣旨

1 計画策定の背景

近年、人口減少や社会的ニーズの変化等に伴い、空家が増加しており、そのうち適正な管理が行われていないものは、安全性の低下や公衆衛生の悪化、景観の阻害等、様々な問題を発生させ、地域住民の生活環境に深刻な影響を及ぼすことになりかねません。そこで、空家等に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、公共の福祉の増進と地域の振興に寄与することを目的として、平成26年11月27日に「空家等対策の推進に関する特別措置法」（平成26年法律第127号）（以下「法」といいます。）が公布され、平成27年5月26日には全面施行されました。

法では、空家等の所有者または管理者が、空家等の適切な管理について第一義的な責任を有することを前提としつつも、空家等に関する計画的な対策の実施については、住民に最も身近な行政主体であり、個別の空家等の状況を把握する立場にある市町村の責務としています。

そこで、本町は、空家対策を総合的かつ計画的に推進するため、いの町空家等対策計画を策定します。

2 計画の位置付け

本計画は、法第6条第1項に基づき策定するもので、平成27年2月に国から示された「空家等に関する施策を総合的かつ計画的に実施するための基本的な指針」に即した計画とします。

また、「いの町振興計画」や「いの町まち・ひと・しごと創生総合戦略」など関連する計画と連携を図りながら計画を実施していくものです。

第2章 本町の人口と空家等の状況

1 人口・世帯

(1) 人口・世帯の推移

本町における人口・世帯数の推移は下記のとおりとなっています。

	世帯数(世帯)	人口総数(人)	男性(人)	女性(人)
昭和40年	7,808 世帯	29,803 人	14,300 人	15,503 人
昭和45年	7,800 世帯	27,653 人	13,320 人	14,333 人
昭和50年	8,508 世帯	28,196 人	13,675 人	14,521 人
昭和55年	9,437 世帯	29,036 人	14,403 人	14,633 人
昭和60年	9,044 世帯	28,423 人	13,819 人	14,604 人
平成2年	9,276 世帯	28,293 人	13,724 人	14,569 人
平成7年	10,118 世帯	30,079 人	14,445 人	15,634 人
平成12年	10,285 世帯	28,729 人	13,733 人	14,996 人
平成17年	10,005 世帯	27,068 人	12,879 人	14,189 人
平成22年	9,772 世帯	25,062 人	11,915 人	13,147 人
平成27年	9,198 世帯	22,767 人	10,797 人	11,970 人

【資料：国勢調査】

(2) 地区別人口の推移

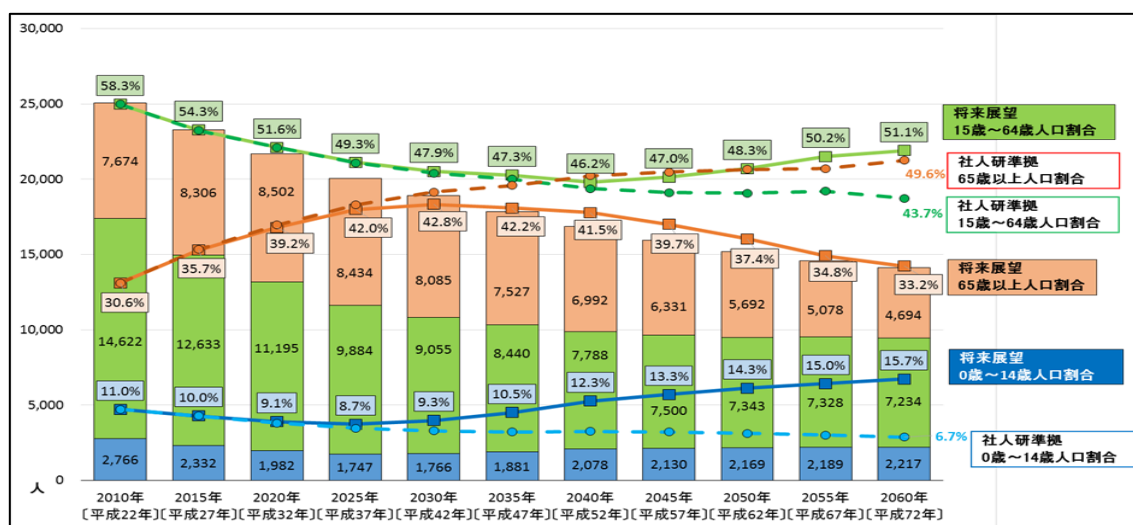
本町における地区別人口の推移は、下記のとおりとなっています。

		(単位:人)			
地区名	平成19年3月31日現在	平成24年3月31日現在	平成29年3月31日現在	10年間の減少率	
伊野地区	伊野	6,910	6,418	5,913	14.43%
	八田	837	770	698	16.61%
	枝川	6,765	6,401	6,029	10.88%
	池ノ内	512	443	407	20.51%
	川内	2,158	2,009	1,916	11.21%
	加田	363	306	304	16.25%
	神谷	540	468	407	24.63%
	鹿敷	329	282	262	20.36%
	小野	135	110	99	26.67%
	成山	43	44	36	16.28%
	中追	125	100	77	38.40%
	楠瀬	81	71	60	25.93%
	柳瀬	180	174	151	16.11%
	勝賀瀬	321	289	255	20.56%
	天王	4,685	4,490	4,080	12.91%
(小計)	23,984	22,375	20,694	13.72%	
吾北地区	清水	593	497	417	29.68%
	上八川	933	786	661	29.15%
	小川	1,106	967	835	24.50%
	下八川	598	556	466	22.07%
	(小計)	3,230	2,806	2,379	26.35%
本川地区	下本川	248	202	198	20.16%
	中本川	336	269	228	32.14%
	上本川	121	98	75	38.02%
	(小計)	705	569	501	28.94%
合計	27,919	25,750	23,574	15.56%	

【資料：住民基本台帳】

(3) 将来推計

本町における人口の将来推計は、下記のとおりとなっています。



【資料：いの町まち・ひと・しごと創生総合戦略】

2 住宅総数と空家数

(1) 住宅数・空家数・空家率

本町の住宅数・空家数・空家率については、総務省が実施した「住宅・土地統計調査」によると、次のとおりとなっています。

調査年次	住宅総数	居住世帯あり	居住世帯なし（空家）	空家率
平成20年	10,950棟	9,590棟	1,360棟	12.42%
平成25年	11,380棟	9,400棟	1,980棟	17.40%
平成30年	11,200棟	9,110棟	2,090棟	18.66%

【資料：住宅・土地統計調査（総務省統計局）】

(2) 空家の種類

本町における空家の種類については、次のとおりとなっています。

調査年次	空家数（総数）	二次的住宅	賃借用の住宅	売却用の住宅	その他の住宅
平成20年	1,310棟	130棟	250棟	—	930棟
平成25年	1,980棟	70棟	160棟	20棟	1,730棟
平成30年	2,090棟	50棟	380棟	20棟	1,560棟

（二次的住宅…別荘など）

【資料：住宅・土地統計調査（総務省統計局）】

※ 合計が合わない場合があります。

3 住宅の建築時期

本町における住宅の建築時期は、次のとおりとなっています。

(住宅の種類による分類)

建築時期	総数	住宅の種類	
		専用住宅	店舗その他の併用住宅
住宅総数	9,400	9,090	300
昭和45年以前	2,060	2,010	50
昭和46年～55年	1,780	1,710	70
昭和56年～平成2年	1,920	1,840	80
平成3年～12年	1,720	1,650	70
平成13年～17年	790	760	30
平成18年～22年	720	720	—
平成23年～25年9月	280	280	—
建築の時期「不詳」	120	120	—

【資料：平成25年住宅・土地統計調査（総務省統計局）】

※ 合計が合わない場合があります。

(構造による分類)

建築時期	総数	住宅の構造				
		木造（耐火木造を除く）	耐火木造	鉄筋・鉄骨コンクリート造	鉄骨造	その他
住宅総数	9,400	6,310	2,110	410	570	—
昭和45年以前	2,060	1,950	110	—	—	—
昭和46年～55年	1,770	1,170	390	160	50	—
昭和56年～平成2年	1,920	1,380	290	80	170	—
平成3年～12年	1,720	1,050	360	120	190	—
平成13年～17年	790	350	380	30	30	—
平成18年～22年	720	270	370	—	80	—
平成23年～25年9月	280	70	170	—	40	—
建築の時期「不詳」	140	70	40	20	10	—

【資料：平成25年住宅・土地統計調査（総務省統計局）】

※ 合計が合わない場合があります。

第3章 空家等対策に係る基本的な方針

1 目的

本町における空家等対策の推進及び空家等の活用の促進を図ることにより、住民が安全に、かつ、安心して暮らすことができる生活環境を確保するとともに、まちづくりの活動の活性化に寄与することを目的とします。

2 基本理念

(1) 安全で安心なまちづくり

南海トラフ地震は避けられないことが分かっており、住宅の耐震化、避難場所・避難路の整備、また発災後における避難生活の準備など、災害への備えを進めています。

老朽化が進み発災時に倒壊する恐れのある空家は除却し、その他の空家は、耐震性を確保した上で再生・活用し、南海トラフ地震を生き抜くまちづくりを目指していきます。

(2) 自然の恵みを活かした快適な住まいづくり

豊富な自然に囲まれ、快適な住環境に恵まれた本町においては、その快適性を維持するため、自然環境の保全に努めています。そのため、空家の老朽化による住環境の悪化防止や、空家を再生する際には、地域の自然素材を活用するなど、快適な住まいづくりを目指します。

(3) 生き生きと支え合うコミュニティづくり

本町は、高齢者が多いことから、身体機能の低下や障害の程度に応じたバリアフリー化及び在宅生活を支える様々なサービスの充実を図っています。

今後は、見守りができる近隣のコミュニティを活性化することで、誰もが安心して住むことができる魅力あるまちづくりを目指し、世代間の交流ができる住環境づくりに取り組みます。

(4) ストックを活かした住まいづくり

空家を公的賃貸住宅として再生することで、移住者向け住宅、高齢者や子育て世帯など、特に配慮を要する方向けの住宅として活用することで効率の良い住宅供給を目指します。

また、文化財的な価値のある空家などについては、住宅に限らず集会所、井戸端交流サロンなどストックの特性を生かした再生をすることで地域の活性化につなげていきます。

3 基本的事項

(1) 対象地区

空家等に関する対策の対象とする地区は、いの町内全域とします。

ただし、今後行われる空家等に関する調査等の結果、他の地区と比べ、著しく空家率が高い等の理由により、空家等対策を重点的に推し進める必要がある地区がある場合は、重点地区と定めることとします。

対 象 地 区 ： い の 町 内 全 域

(2) 対象とする空家等の種類

本計画で対象とする空家等の種類は、法第2条第1項に規定する「空家等」（法第2条第2項に規定する「特定空家等」を含む）と、町が所有又は管理する空家等とします。

4 計画期間

本計画の期間は、5年間とします。

なお、本計画は、継続して適正な進行管理を行うとともに、各種施策の実施による効果や社会状況の変化等により、必要に応じて見直しを図るものとします。

計 画 期 間 ： 令 和 3 年 度 から 令 和 7 年 度 ま で

5 空家等の調査に関する事項

(1) 空家等の実態調査に関する計画

本町は、データベース作成のため等の空家等の実態調査を継続的に実施します。

ア 対象区域

原則として本町全域とします。ただし、やむを得ない理由により、調査が困難な区域は除きます。

イ 期間

調査は原則として、計画期間中必要に応じて行います。

ウ 対象

法第2条第1項に規定する「空家等」（法第2条第2項に規定する「特定空家等」を含む）と、町が所有又は管理する空家等とします。

エ 調査内容及び方法等

空家等の戸数、空家等の状態、特定空家等への該当の可能性等について、調査することとし、その調査方法は、民間事業者への委託等を含め、空家等の実態調査を行う上で適切な方法で行うものとします。

(2) 空家等の所有者等の調査

空家等の実態調査の情報に基づき土地建物登記簿、固定資産課税台帳、住民基本台帳、戸籍簿等から、所有者等を把握します。

(3) その他の調査

空家の施策の進捗とともに、新たに調査が必要と思われる事項が発生した場合は、その都度必要な調査を行うものとします。

6 所有者等による空家等の適切な管理の促進

(1) 空家所有者の責務

空家等は、所有者の財産であることから、憲法で規定する財産権や民法で規定する所有権に基づき、その所有者の責任において自主的に管理すること

が原則です。

また、法では、「空家等の所有者等は、周辺的生活環境に悪影響を及ぼさないよう、空家等の適切な管理に努めるものとする。」と規定されています。

ただし、所有者が死亡又は不明な場合もあることから、こうした場合には、法等に基づき、町において調査を尽くして、相続人等、空家等の適正な管理義務者を特定し、的確な指導・助言をすることで、空家等の適正な管理の実施につなげていきます。

(2) 空家の活用について

空家の管理については、空家のまま適正に管理するのとは別に、ニーズに合わせてリフォームすることで再生し、現役の施設として適正な管理を確保する方法もあります。また、町所有の建築物についても、地域の活性化に資するよう、有効活用の対象として検討します。

老朽化が進んでいない住宅については、不動産事業者等に依頼し、賃貸住宅として活用することも可能なことから、住宅所有者が移住希望者などに売却又は賃貸することも可能です。このとき注意を要することとして、建物の耐震性の確保の問題があります。昭和56年5月31日以前の旧耐震基準で建築された住宅については耐震性がない可能性が高く、耐震改修をするなどにより安全性を確保した上で売却又は賃貸する必要があります。

また、南海トラフ地震などの大規模災害時には、被災により住宅を失った方への応急期の住宅として提供することが考えられます。使える空家は覚書若しくは契約の締結など必要な手続きを取りみなし仮設住宅として借り上げるなど、被災者の救済のために提供を依頼します。

このような災害時の役割を有効に担うためには、耐震性の確保が重要であり、本町が実施する空家活用促進事業に空家を提供するなど、日頃から空家の耐震性の確保に係る取り組みが必要になります。

7 空家等及び除却した空家等に係る跡地の活用の促進

本町では、空家を、その所有者から約10年間定期借家するなどし、町で改修したうえで公的賃貸住宅として活用する事業を計画しています。このように借り上げた住宅については、期間満了時に、所有者に返却します。

この事業の実施に当たり、中心部の空家については、市街地から離れた地域に居住する高齢者が、利便性の高い地域へ住み替えるための住宅として再

生し、住み替えにより空家になる従前の住宅については、自然に囲まれた良好な住環境への移住を希望する若者に提供するなど、それぞれのニーズにマッチした住宅として再生します。

需要に対して空家を再生して供給することは、空家そのものを減らすとともに、新築により将来空家となる可能性のあるストックがさらに増えることを抑制することにもなります。

また、文化財的な価値のある空家など、集会所、井戸端交流サロン等、住宅以外の用途に活用することが適当と思われる空家等については、空家の状況やニーズに応じて最も効果的と思われる用途に再生し活用します。

一方、除却した空家等に係る跡地については、狭隘な地区においては近隣住民のための駐車場とし、子育て世帯のいる地域においては児童用の遊び場にするなど、その地域における公共の福祉に資する用途として活用していきます。

8 特定空家等に対する措置その他の特定空家等への対処に関する事項

(1) 基本的方針

空家等のうち、特定空家等に該当するおそれがあるものについては、速やかな改善が求められることから、早期に助言又は指導を行うことが必要です。

このため、特定空家等に該当するか否かの判断にかかわらず、町は、空家等の所有者等に対し、除却、修繕、立木竹の伐採その他周辺的生活環境の保全を図るために必要な措置をとるよう、助言又は指導を行い、早期に解決を図られるように努めます。

(2) 特定空家等に関する判定の手続

空家等が特定空家等に該当した場合には、法に基づく措置を行うこととなりますが、慎重な手続を期すため、町の関係各課の代表等で組織する「いの町特定空家等判定委員会」（以下「委員会」といいます。）を設け、委員会の意見を聴いた上で、措置に向けた手続を行うこととします。

(3) 特定空家等の判断について

空家等が特定空家等に該当するか否かについては、老朽住宅判定基準（いの町老朽住宅等除却事業補助金交付要綱に定める別表）を参考に、関係各課で協議し判断するものとします。なお、必要に応じて専門家の団体で構成されている高知県居住支援協議会の空家対策部会（以下「部会」といいます。）に意見を求めるものとします。

(4) 緊急応急措置

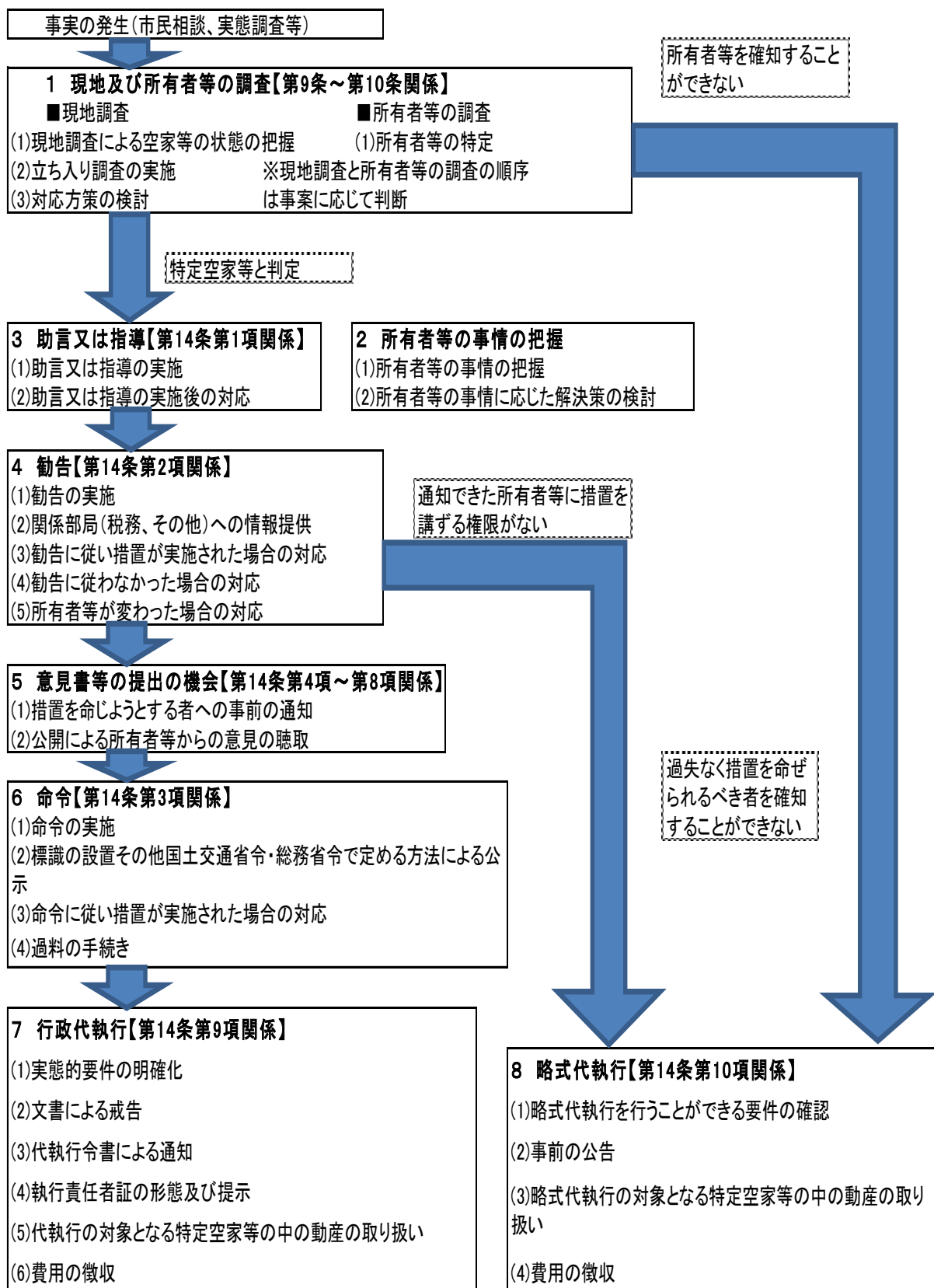
空家等が危険となることが切迫し、かつ、当該空家等の所有者等が判明しないときは、危険な状態となることを防止するため、町は必要最低限の措置を講ずるものとします。

(5) 特定空家等に対する措置の流れ

特定空家等に対する措置の流れは、次のフロー図のとおりです。

なお、法に基づく「勧告」を行うことにより、固定資産税の住宅用地の特例が解除されます。

特定空家等に対する措置手順フロー図



9 住民等からの空家等に関する相談への対応に関する事項

(1) 相談窓口の設置

本町では、空家等の利活用に関する内容の相談に対応する「相談窓口」を総合政策課内に、また管理不全な空家等に関する内容の相談に対応する「相談窓口」を総務課内に設置します。

(2) 対応

各相談窓口は、本町の各機関と連携し住民等からの相談に対応することとし、専門的な知識を要する相談等については、様々な分野の団体等と協力し対応することとします。

10 空家等に関する対策の実施体制に関する事項

(1) 組織体制

本町における空家等対策の各機関は以下のとおりです。

機関名	役割
総務課 吾北総合支所住民福祉課 本川総合支所住民福祉課	<ul style="list-style-type: none"> • 空家等の調査 • 空家等（老朽住宅）の除却費補助 • 空家相談 • 防災、防犯上危険と判断される建築物情報の提供 • 住宅耐震
総合政策課 吾北総合支所産業課 本川総合支所産業建設課	<ul style="list-style-type: none"> • 空家等の調査 • 空家等のデータベース管理 • 空家バンク • 空家活用 • 移住希望者への空家情報や仕事情報の発信、移住者のサポート等 • 空家相談
町民課	<ul style="list-style-type: none"> • 特定空家所有者、固定資産情報照会 • 住民基本台帳、戸籍情報照会
管財契約課 吾北総合支所住民福祉課 本川総合支所住民福祉課	<ul style="list-style-type: none"> • 町営住宅
環境課	<ul style="list-style-type: none"> • 環境保全調査、助言等
ほけん福祉課	<ul style="list-style-type: none"> • 高齢者への助言等
不動産業者	<ul style="list-style-type: none"> • 物件交渉や賃貸・譲渡契約の適正な仲介
いの町特定空家等判定委員会	<ul style="list-style-type: none"> • 特定空家等の判断についての意見聴取、決定

(2) 専門家の団体との連携

特定空家等の判断や、相談対応、活用に関する技術的助言などについて高知県居住支援協議会の空家対策部会と連携して対応します。

11 空家等に関する対策の実施に関し必要な事項

(1) 基本的な考え方

本町は、法に基づき空家等に関する多岐にわたる空家等の課題に対応することとします。

また、空家等対策の推進には、高い専門性を要求されることから、関係機関との連携の下に、対策を講ずることが必要です。

(2) 関係団体との連携

ア 専門家団体及び事業者との連携

本町は、高知県居住支援協議会に所属しており、協議会内で、空家に関する対策に対応するため不動産事業者を含む専門家及び事業者により組織されている空家対策部会と連携し、専門性の高い問題の対応や具体的な対策の実施につなげます。

イ 警察との連携

法の目的規定には、「防犯」の記載はありませんが、適切に管理されていない空家等が犯罪の温床となったり、犯罪を誘発する危険性を秘めていることは否めません。

このため、防犯的な観点からも、必要な限度において、警察と空家等に関する情報を共有するなど、相互に協力するものとします。

ウ 消防との連携

適切な管理が行われていない空家等の放火や、空家等の敷地に繁茂している草が枯れ、タバコなどの火が燃え移る危険が予測されることから、必要な限度において、消防と空家等に関する情報を共有するなど、防災的な観点から相互に協力するものとします。

エ 自治会との連携

地元を良く知る自治会の協力なしでは、空家等の問題は解決しません。そこで、町は、自治会から寄せられた空家等に関する情報などに注意を払い、問題の早期解決に努める必要があります。

また、特定空家等に該当していない空家等であっても、自然災害などにより、急速に腐朽が進行したり、倒壊のおそれのある状態となることも考えられます。

このため、こうした危険な状態となっている空家等に関する情報を

自治会から提供を受けることにより、迅速な対応を図るものとし
ます。

オ その他関係団体との連携

アからエまでのほか、町は、空家等対策の推進のため、弁護士、司
法書士、土地家屋調査士、建築士及び金融・経済団体等の関係団体
には、町が実施する空家等対策事業に対する支援を期待するととも
に、相互に連携を図りながら、空家等の問題に取り組む必要があり
ます。

第4章 空家等対策の基本的施策

1 空家等に関する補助制度等

(1) いの町老朽住宅等除却事業補助金

本町は、平成27年度から、老朽化した空家等の除却に関する補助制度を導入しています。これは、地震の際、避難路を塞ぐ可能性のある老朽住宅を除去することを目的としていて、空家の解体工事に係る費用に対して補助をします。

(2) 空家バンク制度

当制度は、空家の賃貸、売却等を希望する所有者等から申し込みを受けた情報を、本町へ定住を目的として空家の利用を希望する者に対して紹介するための空家紹介制度であり、平成27年度から導入しています。また、住宅改修を行う場合は補助します。

(3) 中間管理住宅

本町への移住定住を促進するため、町が所有する又は借り受ける空き家住宅を整備し、賃貸の用に供する住宅の設置及び管理を行っています。

資料編

1 空家等対策の推進に関する特別措置法

(平成二十六年十一月二十七日法律第二百二十七号)

(目的)

第一条 この法律は、適切な管理が行われていない空家等が防災、衛生、景観等の地域住民の生活環境に深刻な影響を及ぼしていることに鑑み、地域住民の生命、身体又は財産を保護するとともに、その生活環境の保全を図り、あわせて空家等の活用を促進するため、空家等に関する施策に関し、国による基本指針の策定、市町村（特別区を含む。第十条第二項を除き、以下同じ。）による空家等対策計画の作成その他の空家等に関する施策を推進するために必要な事項を定めることにより、空家等に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって公共の福祉の増進と地域の振興に寄与することを目的とする。

(定義)

第二条 この法律において「空家等」とは、建築物又はこれに附属する工作物であって居住その他の使用がなされていないことが常態であるもの及びその敷地（立木その他の土地に定着する物を含む。）をいう。ただし、国又は地方公共団体が所有し、又は管理するものを除く。

2 この法律において「特定空家等」とは、そのまま放置すれば倒壊等著しく保安上危険となるおそれのある状態又は著しく衛生上有害となるおそれのある状態、適切な管理が行われていないことにより著しく景観を損なっている状態その他周辺的生活環境の保全を図るために放置することが不適切である状態にあると認められる空家等をいう。

(空家等の所有者等の責務)

第三条 空家等の所有者又は管理者（以下「所有者等」という。）は、周辺的生活環境に悪影響を及ぼさないよう、空家等の適切な管理に努めるものとする。

(市町村の責務)

第四条 市町村は、第六条第一項に規定する空家等対策計画の作成及びこれに基づく空家等に関する対策の実施その他の空家等に関する必要な措置を適切に講ずるよう努めるものとする。

(基本指針)

第五条 国土交通大臣及び総務大臣は、空家等に関する施策を総合的かつ計画的に実施するための基本的な指針（以下「基本指針」という。）を定めるものとする。

2 基本指針においては、次に掲げる事項を定めるものとする。

- 一 空家等に関する施策の実施に関する基本的な事項
 - 二 次条第一項に規定する空家等対策計画に関する事項
 - 三 その他空家等に関する施策を総合的かつ計画的に実施するために必要な事項
- 3 国土交通大臣及び総務大臣は、基本指針を定め、又はこれを変更しようとするときは、あらかじめ、関係行政機関の長に協議するものとする。
- 4 国土交通大臣及び総務大臣は、基本指針を定め、又はこれを変更したときは、遅滞なく、これを公表しなければならない。

(空家等対策計画)

第六条 市町村は、その区域内で空家等に関する対策を総合的かつ計画的に実施するため、基本指針に即して、空家等に関する対策についての計画（以下「空家等対策計画」という。）を定めることができる。

2 空家等対策計画においては、次に掲げる事項を定めるものとする。

- 一 空家等に関する対策の対象とする地区及び対象とする空家等の種類その他の空家等に関する対策に関する基本的な方針
- 二 計画期間
- 三 空家等の調査に関する事項
- 四 所有者等による空家等の適切な管理の促進に関する事項
- 五 空家等及び除却した空家等に係る跡地（以下「空家等の跡地」という。）の活用の促進に関する事項
- 六 特定空家等に対する措置（第十四条第一項の規定による助言若しくは指導、同条第二項の規定による勧告、同条第三項の規定による命令又は同条第九項若しくは第十項の規定による代執行をいう。以下同じ。）その他の特定空家等への対処に関する事項
- 七 住民等からの空家等に関する相談への対応に関する事項
- 八 空家等に関する対策の実施体制に関する事項
- 九 その他空家等に関する対策の実施に関し必要な事項

3 市町村は、空家等対策計画を定め、又はこれを変更したときは、遅滞なく、これを公表しなければならない。

4 市町村は、都道府県知事に対し、空家等対策計画の作成及び変更並びに実施に関し、情報の提供、技術的な助言その他必要な援助を求めることができる。

(協議会)

第七条 市町村は、空家等対策計画の作成及び変更並びに実施に関する協議を行うための協議会（以下この条において「協議会」という。）を組織することができる。

2 協議会は、市町村長（特別区の区長を含む。以下同じ。）のほか、地域住民、市

町村の議会の議員、法務、不動産、建築、福祉、文化等に関する学識経験者その他の市町村長が必要と認める者をもって構成する。

3 前二項に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、協議会が定める。

（都道府県による援助）

第八条 都道府県知事は、空家等対策計画の作成及び変更並びに実施その他空家等に関しこの法律に基づき市町村が講ずる措置について、当該市町村に対する情報の提供及び技術的な助言、市町村相互間の連絡調整その他必要な援助を行うよう努めなければならない。

（立入調査等）

第九条 市町村長は、当該市町村の区域内にある空家等の所在及び当該空家等の所有者等を把握するための調査その他空家等に関しこの法律の施行のために必要な調査を行うことができる。

2 市町村長は、第十四条第一項から第三項までの規定の施行に必要な限度において、当該職員又はその委任した者に、空家等と認められる場所に立ち入って調査をさせることができる。

3 市町村長は、前項の規定により当該職員又はその委任した者を空家等と認められる場所に立ち入らせようとするときは、その五日前までに、当該空家等の所有者等にその旨を通知しなければならない。ただし、当該所有者等に対し通知することが困難であるときは、この限りでない。

4 第二項の規定により空家等と認められる場所に立ち入ろうとする者は、その身分を示す証明書を携帯し、関係者の請求があったときは、これを提示しなければならない。

5 第二項の規定による立入調査の権限は、犯罪捜査のために認められたものと解釈してはならない。

（空家等の所有者等に関する情報の利用等）

第十条 市町村長は、固定資産税の課税その他の事務のために利用する目的で保有する情報であって氏名その他の空家等の所有者等に関するものについては、この法律の施行のために必要な限度において、その保有に当たって特定された利用の目的以外の目的のために内部で利用することができる。

2 都知事は、固定資産税の課税その他の事務で市町村が処理するものとされているもののうち特別区の存する区域においては都が処理するものとされているもののために利用する目的で都が保有する情報であって、特別区の区域内にある空家等の所有者等に関するものについて、当該特別区の区長から提供を求められたときは、この法律の施行のために必要な限度において、速やかに当該情報の提供を行うものとする。

3 前項に定めるもののほか、市町村長は、この法律の施行のために必要があるときは、関係する地方公共団体の長その他の者に対して、空家等の所有者等の把握に関し必要な情報の提供を求めることができる。

（空家等に関するデータベースの整備等）

第十一条 市町村は、空家等（建築物を販売し、又は賃貸する事業を行う者が販売し、又は賃貸するために所有し、又は管理するもの（周辺の生活環境に悪影響を及ぼさないよう適切に管理されているものに限る。）を除く。以下第十三条までにおいて同じ。）に関するデータベースの整備その他空家等に関する正確な情報を把握するために必要な措置を講ずるよう努めるものとする。

（所有者等による空家等の適切な管理の促進）

第十二条 市町村は、所有者等による空家等の適切な管理を促進するため、これらの者に対し、情報の提供、助言その他必要な援助を行うよう努めるものとする。

（空家等及び空家等の跡地の活用等）

第十三条 市町村は、空家等及び空家等の跡地（土地を販売し、又は賃貸する事業を行う者が販売し、又は賃貸するために所有し、又は管理するものを除く。）に関する情報の提供その他これらの活用のために必要な対策を講ずるよう努めるものとする。

（特定空家等に対する措置）

第十四条 市町村長は、特定空家等の所有者等に対し、当該特定空家等に関し、除却、修繕、立木竹の伐採その他周辺の生活環境の保全を図るために必要な措置（そのまま放置すれば倒壊等著しく保安上危険となるおそれのある状態又は著しく衛生上有害となるおそれのある状態にない特定空家等については、建築物の除却を除く。次項において同じ。）をとるよう助言又は指導をすることができる。

2 市町村長は、前項の規定による助言又は指導をした場合において、なお当該特定空家等の状態が改善されないと認めるときは、当該助言又は指導を受けた者に対し、相当の猶予期限を付けて、除却、修繕、立木竹の伐採その他周辺の生活環境の保全を図るために必要な措置をとることを勧告することができる。

3 市町村長は、前項の規定による勧告を受けた者が正当な理由がなくてその勧告に係る措置をとらなかった場合において、特に必要があると認めるときは、その者に対し、相当の猶予期限を付けて、その勧告に係る措置をとることを命ずることができる。

4 市町村長は、前項の措置を命じようとする場合においては、あらかじめ、その措置を命じようとする者に対し、その命じようとする措置及びその事由並びに意見書の提出先及び提出期限を記載した通知書を交付して、その措置を命じようとする者又はその代理人に意見書及び自己に有利な証拠を提出する機会を与えなければならない。

5 前項の通知書の交付を受けた者は、その交付を受けた日から五日以内に、市町村

長に対し、意見書の提出に代えて公開による意見の聴取を行うことを請求することができる。

6 市町村長は、前項の規定による意見の聴取の請求があった場合においては、第三項の措置を命じようとする者又はその代理人の出頭を求めて、公開による意見の聴取を行わなければならない。

7 市町村長は、前項の規定による意見の聴取を行う場合においては、第三項の規定によって命じようとする措置並びに意見の聴取の期日及び場所を、期日の三日前までに、前項に規定する者に通知するとともに、これを公告しなければならない。

8 第六項に規定する者は、意見の聴取に際して、証人を出席させ、かつ、自己に有利な証拠を提出することができる。

9 市町村長は、第三項の規定により必要な措置を命じた場合において、その措置を命ぜられた者がその措置を履行しないとき、履行しても十分でないとき又は履行しても同項の期限までに完了する見込みがないときは、行政代執行法（昭和二十三年法律第四十三号）の定めるところに従い、自ら義務者のなすべき行為をし、又は第三者をしてこれをさせることができる。

10 第三項の規定により必要な措置を命じようとする場合において、過失がなくその措置を命ぜられるべき者を確知することができないとき（過失がなく第一項の助言若しくは指導又は第二項の勧告が行われるべき者を確知することができないため第三項に定める手続により命令を行うことができないときを含む。）は、市町村長は、その者の負担において、その措置を自ら行い、又はその命じた者若しくは委任した者に行わせることができる。この場合においては、相当の期限を定めて、その措置を行うべき旨及びその期限までにその措置を行わないときは、市町村長又はその命じた者若しくは委任した者がその措置を行うべき旨をあらかじめ公告しなければならない。

11 市町村長は、第三項の規定による命令をした場合においては、標識の設置その他国土交通省令・総務省令で定める方法により、その旨を公示しなければならない。

12 前項の標識は、第三項の規定による命令に係る特定空家等に設置することができる。この場合においては、当該特定空家等の所有者等は、当該標識の設置を拒み、又は妨げてはならない。

13 第三項の規定による命令については、行政手続法（平成五年法律第八十八号）第三章（第十二条及び第十四条を除く。）の規定は、適用しない。

14 国土交通大臣及び総務大臣は、特定空家等に対する措置に関し、その適切な実施を図るために必要な指針を定めることができる。

15 前各項に定めるもののほか、特定空家等に対する措置に関し必要な事項は、国土交通省令・総務省令で定める。

(財政上の措置及び税制上の措置等)

第十五条 国及び都道府県は、市町村が行う空家等対策計画に基づく空家等に関する対策の適切かつ円滑な実施に資するため、空家等に関する対策の実施に要する費用に対する補助、地方交付税制度の拡充その他の必要な財政上の措置を講ずるものとする。

2 国及び地方公共団体は、前項に定めるもののほか、市町村が行う空家等対策計画に基づく空家等に関する対策の適切かつ円滑な実施に資するため、必要な税制上の措置その他の措置を講ずるものとする。

(過料)

第十六条 第十四条第三項の規定による市町村長の命令に違反した者は、五十万円以下の過料に処する。

2 第九条第二項の規定による立入調査を拒み、妨げ、又は忌避した者は、二十万円以下の過料に処する。

附 則

(施行期日)

1 この法律は、公布の日から起算して三月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。ただし、第九条第二項から第五項まで、第十四条及び第十六条の規定は、公布の日から起算して六月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

(検討)

2 政府は、この法律の施行後五年を経過した場合において、この法律の施行の状況を勘案し、必要があると認めるときは、この法律の規定について検討を加え、その結果に基づいて所要の措置を講ずるものとする。

2 空家等対策の推進に関する特別措置法施行規則

(平成二十七年四月二十二日総務省・国土交通省令第一号)

空家等対策の推進に関する特別措置法（平成二十六年法律第百二十七号）第十四条第十一項の規定に基づき、空家等対策の推進に関する特別措置法施行規則を次のように定める。

空家等対策の推進に関する特別措置法第十四条第十一項の国土交通省令・総務省令で定める方法は、市町村（特別区を含む。）の公報への掲載、インターネットの利用その他の適切な方法とする。

附 則

この省令は、空家等対策の推進に関する特別措置法附則第一項ただし書に規定する規定の施行の日（平成二十七年五月二十六日）から施行する。